



下の句かるた ～木札、下の句にみる遊びの文化～



下の句かるたは、北海道に入植した人々により道内に普及した。「木の札」であることと、小倉百人一首の下の句を読み上げる独特の競技は、北海道特有の遊びの文化である。かつては、主に家庭内での楽しみだったが、近年は冬場の室内競技として愛好者が増加している。かるた競技は、厳格な雰囲気の中での対戦や緊張感の下で、礼節やチームワーク等を体験でき、世代を超えた交流や人間関係を学ぶきっかけにもなっている。大人、子ども、性別を問うことなく競技を通して楽しみながら、日本古来の文化に親しむことに加え、地域コミュニティ発展の場として意義がある。